

進路に合わせた選択を



商学研究科委員長

とみやま
遠山あきら
暁

新入生の皆さんは、現在、ご自身の卒業後における社会人の姿を漠然とイメージしながら、いかに大学生活を送ろうかと希望を膨らませて、大いに思案され、在校生諸君は、当然、真剣かつ具体的に今後のあり方を探っておられるでしょう。その思案材料の一つとして大学院商学研究科を紹介いたします。

一般には、大学院といえば単に研究者になる人のために学部の上に積み上げられた教育機関というイメージを強く持たれているかもしれませんが、確かに、商学研究科は、制度上「商学専攻」という一専攻ですが、実質的には「経営」、「会計」、「商業・貿易」、「金融」、「経済」という幅広い専攻領域を備えて、研究者を育成して、多くの大学教師や研究者を輩出して、全国の大学や研究機関等で活躍されています。

商学研究科は、それだけではありません。同時に、ビジネス社会の国際化が進み、専門性が高まったビジネス環境においてイニシアチブを發揮できる専門的応用能力を備えた人材を育成することを重要な機能に据えて、教師一同一丸となって教育の充実に取り組んでいます。欧米では大学院ビジネススクール)の修士号取得が第一線の管理者になる必要要件になっており、日本でもすでに知識集約型ビジネスを中心にこの傾向が現われ、どのような業種・業界でも修士号取得者の「マーケティングリテリ」はますます強まっています。

このような多様化と中央大学商学部のこれまでの伝統を踏まえて商学研究科の博士前期課程(修士課程…2年間)では3つのコースを設置して、特定の指導教授(副指導教授)のもとで、各々の院生の研究目的を徹底して実現しようとしています。

(A) 研究専修コース
経営・会計・商業貿易・金融・経済等々に関する研究とその研究者を育成することを理念・目的としています。

(B) 会計専修コース
公認会計士、税理士などの職業会計人を育成すべく会計に関する専門的知識と応用能力の養成を理念・目的としています。

(C) ビジネス専修コース
ビジネスに関連する諸現象を分析し、問題を発見・解決する専門的知識と応用能力の養成を理念・目的としています。

なお(B)、(C)コースを選択する場合は、「修士論文」に代わり事業計画、問題解決提案、統計調査報告などの「特定課題研究」の成果の提出も可能です。また大学院後期課程(3年間)へも修士論文の作成の選択によって可能です。

商学研究科への入学方法は、学部内からは、「学内推薦入学制度」、「一般入学試験制度」の2種類と、3年次で「特別進学入学試験(飛び級)」によって大学院を受験することができます。そのほかには、「社会人特別入試」、「外国人留学生入試」などがありますが詳細は、ホームページを参照するか大学院事務室の窓口で相談してください。

なお、商学研究科が発足以来の学位取得者数は、修士号取得者902名、博士号取得者は10名におよび、とくに学外者を含む博士号の取得者数は、本学の文系大学院(研究科中、最高の数に達しています)。